



岸和田市郷土文化室（自然資料館・郷土資料館）

平成 18 年 3 月 1 日

イモリの飼育

皿池 伸夫

私は普段、自然資料館のアドバイザーとして、生きたまま展示するための水生生物を野外で採集してきては、その世話をしています。

「from M」では、かれこれ 1, 2 年くらい前に、私独自のメダカの飼育方法を紹介しました。今回、また何か紹介して欲しいとの依頼があり、再び登場と相成りました。

そこで何を紹介しようかと考えたのですが、自然資料館で飼育展示しているオヤニラミやワタカなどのマニアックな魚について紹介しても、学校で飼育する機会はおそらくないと思われますし、かといって、アメリカザリガニやアカミミガメなどはふつうすぎておもしろくありません。あれこれ考えた結果、「イモリ」を紹介することにしました。イモリは岸和田でも川の上流域に行けば採集できますし、ペットショップで見かけることもありますから、学校でも一度くらいは飼育したことがあるのではないのでしょうか。



イモリが飼育されている水槽のようす

さて、みなさんが「イモリ」と聞いて一番最初に思いつくのは、あの腹の真っ赤な部分が目立つことではないのでしょうか。背は黒く、腹が赤と黒の斑紋・斑点があり、見るからに毒々しい姿をしたあのイモリは、正式にはアカハライモリ（ニホンイモリ）*Cynops pyrrhogaster* と呼ばれる種類です。では他にもイモリがいるの？という疑問が出てくるかもしれませんが、それがいるのです。日本には、このアカハライモリの他に、シリケンイモリ *Cynops ensicauda* とイボイモリ *Echinotriton andersoni* の 2 種が生息しています。またシリケンイモリは、アマミシリケンイモリ *C. ensicauda ensicauda* とオキナワシリケンイモリ *C. ensicauda pope* の 2 亜種に分けられており、大ざっぱに見ると、日本には 4 種類のイモリがいることになります。しかしながら、アカハライモリ以外の種は奄美大島や沖縄地方に生息するため、私たちがふつうに野外で見かけるのはアカハライモリだけです。よって今回は、この「アカハライモリ（ニホンイモリ）」（以下、「イモリ」と略す）に限定した飼い方を紹介したいと思います。

こうしたイモリの飼育ですが、方法はいたって簡単です。基本的には、水槽に水を入れ、陸になる石なども入れて餌をあげ、こまめに水を替えてやるだけで十分なのですが、気をつけなければいけないのは、水槽としてフタのあるものを用意することです。なぜなら、イモリは水槽のガラス（もしくはプラスチック）面にピタリとく

っついて、容易に脱走してしまうからです。人間からすると「イモリが逃げて残念」で済む話ですが、イモリにとっては重大事項です。発見が遅ければ、ほぼ確実に教室の隅で、“乾燥イモリ”ができ上がってしまうことでしょう。「イモリの脱走＝死」と考えてもいいわけで、その点は十分に注意しておく必要があります。

次にろ過装置ですが、イモリの飼育では水を水槽いっぱいに入れないので、上面ろ過より底面ろ過の方が好ましいでしょう。魚とは違って必須ではありませんが、ろ過装置を使うことで、ある程度は水替えの回数を減らすことができます。毎回、砂利ごと水替えするのは大変ですから、楽をしたい時には最適です。しかしそれでも、週に2回くらいは水替えをしてあげてください。たとえ見た目がきれいでも、毒であるアンモニアや亜硝酸塩などが増えている可能性があるので、定期的な水替えは必要です。なお、底面ろ過のときに使う砂利は大きいものにしてください。

ちなみに、イモリは陸に上がるのがわりと好きな動物なので、飼育時には必ず陸地を作ってあげてください。写真のような装置で飼育することで、十分鑑賞にも堪えるのではないかと思います。ここまで気を遣ってやれば、イモリは非常に丈夫な生き物なので、病気になったり死んだりすることはまずないでしょう。ちなみにイモリの寿命は20～30年ともいわれていますから、うまくやれば、長期にわたって飼いきれることができます。イモリたちが無事に天寿を全うするまで、愛情を持って飼育していただければと思います。万が一、途中で断念して逃がす際には、もともと採集した場所に逃がすという常識は守るようにしてください。

なお、イモリは比較的簡単に産卵させることができますので、そのやり方も簡単に説明しておきましょう。まず、春から夏に雌雄を1匹ずつ水槽に入れ、その中には必ず水草を入れておきます。なぜ水草を入れるかというと、メスがその水草の葉をくるむようにして卵を産み付けるからです。水草は、オオカナダモのような、入手の容易なものでかまいません。このように準備をしておくだけで、イモリの機嫌が良ければ、繁殖行動の後に産卵を行います。ここで注意しなければならないのは、イモリが産んだ卵を自分で食べてしまうことです。こまめに見ておかないと、知らないうちに産んだ卵を食べてしまって、「あれ？ちっとも産卵しないなあ」ということになってしまいます。ですから、繁殖行動後にはまずオスを別の容器へ移し、さらに産卵後にはメスも別にするようにしてください。

ところで、イモリの繁殖行動とはどのようなものなのでしょうか？まずイモリのオスは、繁殖期になると尾が紫色になり、その尾をメスの顔の近くでヒラヒラさせるという求愛行動をとります。繁殖期のオスはこの動作をかなり頻繁に行うので、かなりの確率で目にする事ができるでしょう。オスはこの求愛行動によってメスを誘い、その前を歩き始めます。すると、受け入れる準備の整ったメスは、オスの後ろに続いて歩き始めます。しばらくすると、オスは肛門（正確には総排出腔）から白い塊を落とします。これは「精包」といい、精子の入った袋みたいなものです。その精包を、後ろからついてきたメスが同じく肛門で受け取って完了となります。チャンスがあれば、ぜひじっくりと観察してみてください。

こうして飼育しやすいイモリですが、一点気をつけなければいけないのは、危険を感じると体表から毒を出すことです。あの毒々しい色は、自分には毒があって食べるとまずいということを示す警戒色（警告色）なのです。イモリを触って死んだ人の話は聞いたことはなく、毒性は弱いようなので、あえて心配する必要はありませんが、触った手で目をこすると腫れるなどの症状が出ることもあるので、触った後は必ず手を洗うよう、子どもたちに

は指導するようにしてください。

ところで、このイモリの毒ですが、実は正体はテトロドトキシン ($C_{11}H_{17}O_8N_3$) です。そう、みなさんよくご存じのフグ毒と同じ成分なのです。この毒は 300℃ に加熱しても分解されないということですので、決してイモリを食べようなどという考えは起こさないでください。ちなみに、日本にもイモリを黒焼きにして食用として販売している店があります。イモリの黒焼きは昔から「惚れ薬」として扱われていたらしく、その名残りなのだと思いますが、いったいどのようにして無毒化しているのでしょうか。それともイモリの毒は本当に極々微量で、人間が食べても問題がないのでしょうか。いずれにせよ、効能の科学的根拠はまったくないので、やはりイモリは食べない方がよいと思います。

(さらいけのぶお：自然資料館アドバイザー)

史跡めぐり

山中 吾朗

岡山御坊跡(岡山町)

戦国時代、久米田池を見下ろす丘陵上に、岡山御坊という浄土真宗の大寺院がありました。本願寺第9世実如(1458～1525)が文亀3(1503)年頃に建立したと伝えられ、「御坊」と呼ばれることから、当時の泉州地域における浄土真宗の中核的寺院であったと考えられますが、天正8(1580)年、織田信長に属した岸和田の武将寺田又右衛門の軍勢に焼かれたため、廃寺となったと言われています。その後、岡山御坊の本尊である阿弥陀如来の画像(方便法身像)や実如直筆と伝える親鸞上人御影等が、岡山・尾生・額原・大町・田治米・三田・摩湯・箕土路の真宗寺院で構成される岡山講八か寺で大切に守り伝えられてきました。方便法身像の裏には、実如の筆で、文亀3年4月28日に「和泉国山直郷包近名内岡山」に下した像であることが記されています。



岡山御坊跡

郷土資料館の資料から

雛人形(古今雛)

雛祭りに人形を飾る風習は、平安時代、三月上巳(じょうし=月の最初の巳の日)に人間のかたちに作った「人形(ひとがた)」を飾り、節句行事の後に身の災厄を人形に移して水に流し捨てたことに始まります。

はじめは公家や武家など上流階級で行われ、江戸時代には庶民にも広

がりましたが、雛人形とは言っても紙や布で作った簡素なもので立ち姿の「立雛」が主でした。しかし、江戸時代中期以後、貨幣経済の発展と人形製作技術の向上を背景に、豪華な衣裳を着せ、畳上に座る形式の雛人形が生まれ、それまでの信仰的性格は薄れ、鑑賞用の雛人形へと変化しました。



古今雛

「古今雛」は明和年間(1764～72)に江戸の人形問屋が人形師原舟月に作らせた形式の人形で、現在の雛人形とよく似た形式のものです。この雛人形は、江戸時代に岸和田中町で綱元を営んだ吉野家に伝わったもので、岸和田藩に金子の融通などもしていたために、天保5(1834)年に長女が生まれた時、殿様から拝領したと伝えられる人形です。大正時代までは向かって右に男雛を飾ることが一般的で、左に男雛を飾るのは、昭和期以後、昭和天皇の即位式になって流行したといわれています。

(やまなかごろう：郷土資料館学芸員)

Information

■郷土資料館からのお知らせ■

(1) 企画展「館蔵の絵画」

- ・開催中(～3月26日(日)まで)
- ・郷土資料館で収蔵する絵画作品28点を展示。
- ・入場料：大人200円 中学生以下無料

(2) 春季特別展「岸和田生まれの陶芸界の鬼才 - 加守田章二」

- ・3月30日(木)～5月7日(日)

岸和田出身で、栃木県益子や岩手県遠野で独創的な陶芸作品を次々に発表し、「20世紀陶芸界の鬼才」とも称される加守田章二の作品約30点を展示します。

- ・入場料：大人400円 中学生以下無料

(1),(2)とも開館時間は午前10時～午後5時(入場は4時まで)、休館日は月曜日(4月3日・10日は開館)です。なお、展示入替のため、3月28日(火)・29日(水)は休館します。

■自然資料館の行事予定■

「バスで行く地層の観察と化石採集会」

岸和田市内から、バスで滋賀県の化石産地へ向かい、化石採集を体験してみましょう。

- ・主催：きしわだ科学の子ども教室実行委員会
- ・日時：2006年3月21日(祝)午前9時～午後6時(予定)
- ・場所：滋賀県甲賀市
- ・対象：小中学生(小学生は保護者同伴・幼児不可)
- ・定員：50名(保護者含む)

- ・申込法：下記

「はじめての石器づくり」

鹿角ハンマーを使って、石のやじりを作ってみましょう。

- ・主催：きしわだ自然資料館・きしわだ科学の子ども教室実行委員会

- ・日時：2006年3月26日(日)午前10時～午後4時

- ・会場：岸和田市立公民館3階創作室

- ・対象：小中学生親子10組20名

- ・申込法：「バスで行く地層の観察と化石採集会」と「はじめての石器づくり」の申込は、3月1日～14日(必着)の間に、往復はがきまたは電子メール(携帯メールは不可)で、参加者全員の〒住所・氏名・年齢・電話番号を明記し、それぞれ「バス」係、「石器」係までお送りください。

「化石のレプリカを作ってみよう」

石こうで、化石のレプリカを作ってみましょう。

- ・主催：きしわだ科学の子ども教室実行委員会

- ・日時：2006年3月29日(水)・30日(木)

午前10時30分～12時(午前の部)

午後2時～4時(午後の部)

- ・場所：自然資料館1階ホール

- ・対象：小中学生(小学生は保護者同伴・おとなだけや幼児の参加不可)

- ・申込：不要(当日受付)

- ・受付：(午前の部)午前10時～11時
(午後の部)午後1時30分～3時

お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館

TEL: (0724) 23-8100 FAX: (0724) 23-8101

Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp

自然資料館ホームページ URL:

<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/sosiki/k-nature/>

Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)